

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

世界と比較「仕事満足度」「エンゲージメント」「仕事の面白さ」共に低い

太田 聡一 (慶応大学経済学部教授)

1. 従来の傾向として、他の先進国に比べて日本では働く人々の仕事満足度が低い。PWC社が行った昨年の国際比較調査でも、仕事に満足している労働者の比率はOECD (経済協力開発機構) 全体の56%に対し、日本はOECD24カ国中23位にとどまっている。
2. 仕事への没頭や熱意などの「エンゲージメント」と呼ばれる側面でも日本の指標は他国に比べて低い。一昨年のギャラップ社調査によると日本において仕事に「エンゲージしている」従業員は5%にすぎず、世界平均の23%、OECD加盟国平均の20%を大きく下回っている。ここまで仕事満足度やエンゲージメントが低いと仕事そのものの面白さと関連しているかもしれない。
3. 実際、ISSPという国際調査で日本は、仕事が「面白い」と答えた比率が他の高所得国より低い。仕事の面白さの指標が日本で低くなるのは「これまでの仕事で得た経験が役立っていると思う人が少ない」「過去1年で教育訓練を受けた人の割合が低い」「仕事の自律性(1人でできるかどうか)が小さい」「職場における人間関係がうまくいっていない」「仕事に社会的意義を見出している人が少ない」といった特徴がある。しかも、日本では他国に比べ、自律性よりも人間関係の円滑さのほうが仕事の面白さに与える影響が大きいという。
(参考:「週刊東洋経済」2024年8月10・17日号)

経営者のための理念・哲学

下り坂には下り坂の風光がある

青山 俊董 (愛知専門尼僧堂堂頭)

1. 曹洞宗を開かれた道元に「四運しいうんを一景いっけいに競う」という言葉があります。四運とは人生でいえば生老病死。あるいは愛する日があれば憎む日もある。成功する日があれば失敗する日もある。そういう人生の諸々を道元は四運と言う言葉で表現され、いかなる時も落ち込んだり逃げたりせずに、同じ姿勢で一歩進んですべてを豊かな景色と受け止めよ、と論されています。私は病気をしてしみじみとこの一句を味わいました。老病死を身を以て勉強でき、やっと一人前になれたと。
2. 詩人で念仏者の榎本栄一さんが「下り坂には下り坂の風光がある」と詠んでおられます。いまは下り坂の風光も一面では楽しんでいこうと、そんな心境です。
(参考:「致知」2024年10月号)

海外事情

「静かな退職者」は資産(米国)

1. 米調査会社ギャラップによると、米国でエンゲージメントを持って働いている人の割合は24年2月時点で30%にとどまり、過去10年で最も低かった。最低限の仕事だけをこなす「静かな退職」や、オフィスに短時間だけ顔を出す「コーヒーバッキング」のまん延を示す数値だ。
2. ボブ・ケレハー(米コンサルティング会社社長)氏は、「静かな退職者を、エンゲージメント向上の可能性を秘めた従業員と捉え直すべきだ」。ケレハー氏によれば、この層は米国の全従業員の53%を占める。「彼らの潜在的な力を引き出せば、職場は劇的に良くなる。従来であれば「わがまま」と見られた行動を取る従業員も増えている。次々と生まれる職場の新語は、新たな「愛社精神」の形を模索する時代の訪れを示している。
(参考:「日経ビジネス」2024年7月22日号)

古典に学ぶ

焦らず取り組めば必ず変化を実感できる

1. 長年続けてきた考え方を変えるには、ある程度の時間はかかります。そんな時に、自己否定や後悔を繰り返すのは、得策ではありません。「迷いの再生産」につながるのですから。
2. つまずいたら、改善しながら取り組めばいいのです。その過程を繰り返すうちに、必ず変化を実感できる時が来ます。焦らず進みましょう。
(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」):河出書房新社